

宮沢賢治研究 *Annual*

Vol.7



1997

宮沢賢治学会イーハトーブセンター

宮沢賢治研究*Annual*

Vol.7



1997

宮沢賢治学会イーハトーブセンター

宮沢賢治研究 Annual 第七号

一九九七年三月三十一日発行（非売品）

編集 宮沢賢治学会イーハトーブセンター編集委員会

〔天沢退二郎（委員長）〕

高橋 世織、中地 文

萩原 昌好、吉田 文憲

発行所 宮沢賢治学会イーハトーブセンター

〒025 岩手県花巻市高松一―一

電話（〇一九八）三一―二一六

FAX（〇一九八）三一―二二三

宮沢賢治研究 Annual
Vol. 7
1997

宮沢賢治ビブリオグラフィ 97

作品集 3

作品翻訳 7

特集・論集 8

研究・評論 28

国語教育 91

エッセイ・その他 95

通信・その他 157

新聞 157

90年目録補遺(5) 265

91年目録補遺(4) 265

93年目録補遺(3) 265

94年目録補遺(2) 265

95年目録補遺(1)

266

95年目録訂正

270

索引

271

宮沢賢治ディスコグラフィ

302

小倉豊文先生

原 子朗

307

玉案下

モンタージュされた詩

岡澤敏男

309

「小岩井農場」

「心象スケッチ」の成立とエマソン受容

水野達朗

316

「水仙月の四日」とはいつか

土岐理和子

334

宮沢賢治と円環序説

青塚宏次

348

―「なめとこ山の熊」と「銀河鉄道の夜」を中心に―

賢治の蔬菜・草花栽培史

― 羅須地人の苦悩と夢と ―

伊藤光弥

366

再録論文

宮沢賢治・二相系モデルとしての

『銀河鉄道の夜』

竹腰幸夫

380

研究ノート

賢治と『小さき花』

板谷栄城

401

宮沢賢治国際研究大会公式記録

406

前号の再再訂正・訂正

..... 420

宮沢賢治学会イーハトーブセンター規約

423

宮沢賢治研究 Annual への投稿について

426

宮沢賢治

ビブリオグラフィ

一九九六年一月—十二月

作
成

天 沢 退二 郎
安 藤 恭 子
岡 村 民 夫
奥 田 弘
奥 山 文 幸
小 原 敏 男
栗 原 敦
澤 田 由 紀 子
杉 浦 静
鈴 木 健 司
高 橋 世 織
中 地 文
萩 原 昌 好
平 澤 信 一
山 根 知 子
吉 田 文 憲

(新聞は主として奥田弘、小原敏男が担当した)

協
力
銀
河
の
会

凡例

一、この目録は、一九九六年一月から一二月までに発行された図書資料目録を対象にした。

一部言及のものについては原則として本目録に記載しないが、その言及が記載・参照する価値・必要があると判断される場合には「一部言及」として特にコメントを付しつつ、記載することがある。

二、内容・形式等により次のとおり分類し、配列・記載事項については各分類別に記した。(今回、暫定措置として、新たに【国語教育】の区分を立てた。この措置にともない、事項索引から「国語教育」の項をはずすこととする。)

なお、研究・評論についてはすべて要約を記し、その他適宜参考事項を付した。

【作品】

・配列は刊行順

・記載事項は、『書名』編著者、発行所、発行年月、頁数、大きさ(㎝)、箱・カバー等、定価、収録作品、参考事項の順

【作品翻訳】

・前項に準ずる。

【論集・特集】

・配列は刊行順

・記載事項は、『書名』または誌名、巻号、発行所、発行年月、収録論文等の順

【研究・評論】

・配列は著者名の第一音からの五十音順(第一音が同音の場合は、アルファベット・カタカナ・ひらがな・漢字目画の少ない方の順)、同一著者複数項目の場合は発表順

・著書の記載事項は、著者名『書名』発行所、発行年月、総頁数、大きさ(㎝)、内容要約の順

・論文は、筆者名「題名」副題——「誌名(あるいは著書・

所収論集名)、巻号、発行機関、発行年月、所収頁数・頁数、内容要約の順

【国語教育】

・前項の研究・評論に準ずる。

【エッセイ・その他】

・前項の研究・評論に準ずる。

【通信・その他】

・配列は紙名の五十音順

・記載事項は、紙名、発行所、巻号、発行年月の順

【新聞】

・配列は紙名の五十音順、各紙とも日付順、朝・夕刊順にあげ、同日付けの記事は、ページ順に掲げた。

・全国紙のページは、特記した以外は岩手版によった。

・「夕刊」の特記のないものは朝刊を示している。

・見出しは、適宜、取捨し改めたものがある。

・(「」内には、記事の内容を補った。

・テレビ・ラジオ番組は、各紙配列の最後にまとめた。

三、参照する項目がある場合は、その項目の番号(既刊のものはその巻数も)を次のように示した。

〔「番号」〕〔↓vol.巻数〕番号(補遺の場合は、刊行年—番号)〕

お願い

本目録に記載されていない図書について、ご寄贈、または入手方法などのご教示をお願いいたします。

宮沢賢治学会イーハトーブセンターでは会員の皆様に広くご利用いただけるよう、資料の充実に努めています。

【作品集】

- 01 『新校本宮澤賢治全集第11巻 童話Ⅳ』宮沢清六・天沢退二郎・入沢康夫・奥田弘・栗原敦・杉浦静編、筑摩書房、96年1月、本文篇234頁・校異篇321頁、22cm、箱、580円

「北守将軍と三人兄弟の医者（初期形）」「グスコンブドリの伝記」「ボラーノの広場」「銀河鉄道の夜」「風（の）」又三郎「ひときとひなげし」「セロ弾きのゴーシュ」

〈月報9〉川村湊「宮沢賢治と「満州」」1—3頁（↓220）、外山正「宮沢賢治の〈永久機関〉」3—4頁、出久根達郎「たとえばの楽しみ」5—7頁（↓396）、天沢退二郎「編集室から」7—8頁（↓115）

- 02 『新校本宮澤賢治全集第3巻 詩Ⅱ』筑摩書房、96年2月、本文篇290頁・校異篇674頁、22cm、箱、820円

「春と修羅 第二集」「春と修羅 第二集補遺」

〈月報10〉長谷川善和「賢治と恐竜」1—3頁（↓439）、奥山文幸「関東大震災と「銀河鉄道の夜」」3—5頁（↓199）、赤坂憲雄「村の衰滅のなかで、賢治へ」5—7頁（↓103）、杉浦静「編集室から」7—8頁（↓321）

- 03 『新校本宮澤賢治全集第1巻 短歌・短唱』筑摩書房、96年3月、本文篇元3頁・校異篇272頁、22cm、箱、620円

「歌稿（A）」「歌稿（B）」「（冬のスケッチ）」

- 〈月報11〉長岡輝子「私流賢治読み」1—3頁、佐藤通雅「脳病の歌」3—5頁（↓273）、鎌田東二「宮沢賢治とケルト」5—7頁（↓214）、杉浦静「編集室から」7—8頁（↓322）
- 04 『ジュニア文学館 宮沢賢治1巻 宮沢賢治の生涯』三好京三（編著）・小松健一（写真）、日本図書センター、96年3月、186頁、30cm

三好京三「宮沢賢治と私 イーハトーブのきらめく星」12—110頁、「写真で見る 宮沢賢治の生涯」112—180頁、「年譜」181—184頁

- 05 『ジュニア文学館 宮沢賢治2巻 宮沢賢治の童話』早乙女勝元（編著）・小松健一（写真）、日本図書センター、96年3月、246頁、30cm

早乙女勝元「宮沢賢治 童話の世界 星と風と森と平和の讃歌」4—10頁

- 06 『ジュニア文学館 宮沢賢治3巻 宮沢賢治の詩』栗原敦（編著）・小松健一（写真）、日本図書センター、96年3月、190頁、30cm

栗原敦「宮沢賢治 詩の世界 心象・スケッチ 改変—賢治詩への招待」14—18頁

- 07 『イーハトーボ農学校の春』角川書店、96年3月、205頁、15cm（角川文庫）、カバー、430円

「或る農学生の日誌」「台川」「イーハトーボ農学校の春」「イギリス海岸」「耕耘部の時計」「みじかい木べん」「種山ヶ原」「十

月の末」「谷」「二人の役人」「鳥をとるやなぎ」「さいかち淵」、
注釈・大塚常樹、解説・板谷栄城、年譜・中村稔

08 『まなづるとダアリヤ』角川書店、96年3月、247頁、15cm

(角川文庫)、カバー、470円

「蜘蛛となめくじと狸」「めくらぶどうと虹」「ツェ」「ねずみ」

「鳥箱先生とフウねずみ」「クシねずみ」「けだもの運動会」「カイ

ロ団長」「寓話洞熊学校を卒業した三人」「畑のへり」「蛙のゴム

靴」「林の底」「黒ぶどう」「月夜のけだもの」「いちようの実」

「まなづるとダアリヤ」「ひのきとひなげし」「茨海小学校」、注釈・

大塚常樹、解説・ますむらひろし、年譜・中村稔

09 『こどものための日本の名作』宮沢賢治 小川未明 新美南吉
世界文化社、96年3月、407頁、24cm、カバー、270円

「注文の多い料理店」「どんぐりと山ねこ」「オッベルと象」

「ツェねずみ」「よだかの星」「やまなし」「水仙月の四日」「雪わ

たり」「度十公園林」「セロひきのゴーシュ」

10 『インドラの網』角川書店、96年4月、282頁、15cm (角川文

庫)、カバー、470円

「インドラの網」「雁の童子」「学者アラムハラドの見た着物」

「三人兄弟の医者」と北守將軍(韻文形)」「電と詩人」「チュウリッ

プの幻術」「さるのこしかけ」「櫓の木大学士の野宿」「風野又三

郎」、注釈・大塚常樹、解説・栗谷川虹、年譜・中村稔

11 『銀河鉄道の夜』佐藤国男(木版画)・斎藤征義(編)、北
海道新聞社、96年4月(改訂復刻版)、47頁、30cm、カバー、

2400円

84年12月に同社から発刊したものの復刻版。

12 『新校本宮澤賢治全集第6巻 詩V』筑摩書房、96年5月、

本文篇387頁・校異篇272頁、22cm、箱、6200円

「三原三部」「東京」「装景手記」「補遺詩篇II」「生前発表童謡」

「生前発表詩篇」「句稿」「エスプラント詩稿」「歌曲」

《月報12》西谷修「生命の地質学」1—3頁(↓429)、畑中純

「拜啓、山猫様」3—5頁、須賀敦子「賢治の魔術」5—7頁、

栗原敦「編集室から」7—8頁(↓243)

13 『宮沢賢治かみしばいの森』全6巻、童心社、96年5月、38

×26cm、ケース・箱入り、セット定価一万800円

「ふたごのはし」「どんぐりとやまねこ」「やまなし」「けんじゅ

うこうえんりん」「よだかの星」「おいの森とざる森、ぬすと森」

14 『宮沢賢治挽歌画集 永訣の朝』遠山繁年(画)、偕成社、

96年5月、40頁、36cm、カバー、300円

「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」「風林」「白い鳥」「青森挽

歌」「オホーック挽歌」「樺太鉄道」「鈴谷平原」「噴火湾」「薤露

青」をとりあげた画集。

15 『セロ弾きのゴーシュ』角川書店、96年5月(改訂新版)、

323頁、15cm (角川文庫)、カバー、520円

「雪渡り」「やまなし」「水河風の毛皮」「シグナルとシグナレ

ス」「オッベルと象」「ざしき童子のはなし」「寓話猫の事務所」

- 「北守將軍と三人兄弟の医者」「グスコープドリの伝記」「朝に就ての童話的構図」「セロ弾きのゴーシュ」、付録「ペンネンネンネン・ネネムの伝記」「ペンネンノルデはいまはいないよ 太陽にできた黒い棘をとりに行ったよ」、注釈・大塚常樹、解説・小倉豊文・別役実、年譜・中村稔
- 16 『ビジテリアン大祭』角川書店、96年5月、246頁、15cm（角川文庫）、カバー、470円
- 「ビヂテリアン大祭」「二十六夜」「よく利く薬とえらい薬」「馬の頭巾」「税務署長の冒険」「マリヴロンと少女」「フランドン農学校の豚」「葡萄水」「車」「虔十公園林」「毒もみのすきな署長さん」、注釈・大塚常樹、解説・中沢新一、年譜・中村稔
- 17 『銀河鉄道の夜』角川書店、96年5月（改訂新版）、264頁、15cm（角川文庫）、カバー、430円
- 「おきなぐさ」「双子の星」「貝の火」「よだかの星」「四又の百合」「ひかりの素足」「十力の金剛石」「銀河鉄道の夜」、注釈・大塚常樹、解説・河合隼雄、年譜・中村稔
- 18 『風の又三郎』角川書店、96年6月（改訂新版）、198頁、15cm（角川文庫）、カバー、430円
- 「風の又三郎」「とっこべとら子」「祭の晩」「なめとこ山の熊」「土神ときつね」「気のいい火山弾」「化物丁場」「ガドルフの百合」「マグノリアの木」、注釈・大塚常樹、解説・池澤夏樹、年譜・中村稔
- 19 『注文の多い料理店』角川書店、96年6月（改訂新版）、234頁、15cm（角川文庫）、カバー、430円
- 「序」「どんぐりと山猫」「狼森と筑森、盗森」「注文の多い料理店」「鳥の北斗七星」「水仙月の四日」「山男の四月」「かしわばやしの夜」「月夜のでんしんばしら」「鹿踊りのはじまり」、付録『注文の多い料理店』新刊案内、注釈・大塚常樹、解説・宮沢清六「兄、宮沢賢治の生涯」・小倉豊文「新しい古典復刻の弁」・早坂暁「注文の少ない本」、年譜・中村稔
- 20 『アニメ版 賢治のトランク』角川書店、96年6月、99頁、22cm、カバー、1300円
- 長編アニメ映画「賢治のトランク」から、「猫の事務所」「氷河ねずみの毛皮」を収録した。
- 21 『アニメ版 双子の星』角川書店、96年6月、81頁、22cm、カバー、1200円
- 長編アニメ映画「賢治のトランク」より「双子の星」を収録した。
- 22 『風呂で読む宮澤賢治』和田博文著、世界思想社、96年6月、104頁、18cm、カバー、980円
- テーマ別に詩作品30編を収録したもの。なお、用紙は湯水に耐える合成樹脂を使用している。
- 23 『宮沢賢治、銀河へ』（版画絵本）畑中純 著、ネスコ／文藝春秋、96年7月、126頁、19cm
- 「どんぐりと山猫」から「銀河鉄道の夜」までの賢治30作品を版画化したもの。（吉田）
- 24 『銀河鉄道の夜』（ASUKA COMICS DX）片山愁著、角川

書店、96年7月、151頁、21cm、カバー、700円

収録作品は、「銀河鉄道の夜」（初出・96年ミステリーDX増刊「歴史ロマンDX」春の号掲載）、「セロ弾きのゴーシュ」（初出・同前初夏の号掲載）、「イーハトーヴ紀行」（初出・95年同前冬の号掲載）の三編。

25 『宮澤賢治詩集 永訣の朝』 北川幸比古編、岩崎書店、96年7月、102頁、20cm、カバー、1500円

26 『作家の随想』 大塚常樹編、日本図書センター、96年9月、363頁、22cm

作家の随想シリーズ第一期全十巻のうちの第八巻、随想風作品Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（このうちⅢは「スケッチ」として詩作品）及び書簡とかななる宮沢賢治の随想（思い、心情面の表れたもの）を主に収録して、併せて編者の解説が付されている。また、年譜も添えられている。（萩原）

27 『注文の多い料理店』（大活字文庫4）、大活字（発行所）、96年9月、262頁、26cm、カバー、3600円

収録作品は『注文の多い料理店』の9編、底本は角川文庫の『注文の多い料理店』による。

28 『新校本宮澤賢治全集第7巻 詩Ⅵ』 筑摩書房、96年10月、本文篇308頁・校異篇728頁、22cm、箱、8240円

「文語詩稿 五十篇」「文語詩稿 一百篇」「文語詩未定稿」

〈月報13〉 シャスティーン・ヴィデーウス「Vintergatan（冬之路）」1—3頁（↓748）、カ丸光雄「賢治の或る読みかた」

3—4頁（↓537）、北村想「永久の未完成」5—6頁（↓900）、入沢康夫「編集室から」7—8頁（↓151）

29 『日本名詩集成』 大岡信・他編、学燈社、96年11月、611頁、19570円

収録作品700篇のうち、賢治作品は「春と修羅」「高原」「原体剣舞連」「永訣の朝」「二五 早春独白」「二〇八二（あすこの田はねえ）」「早春」「眼にて云ふ」の八篇（179—185頁）。それぞれ天沢退二郎による「鑑賞」が付されている。

30 『銀河鉄道の夜』 永島慎二（漫画）、日本放送出版協会、96年11月、192頁、22cm、カバー、1500円

「銀河鉄道の夜」

31 『狼森と笹森、盗森』 村上勉（絵）、偕成社、96年11月、35頁、29cm、カバー、1600円

32 『ガドルフの百合』 ささめやゆき（絵）、偕成社、96年12月、31頁、30cm、カバー、1300円

33 『日本詩人選10 宮沢賢治詩集』 山本太郎編、小沢書店、96年12月、264頁、18cm、カバー、1442円

「日本詩人選」は昭和四十四年、旺文社刊が原本初版。春と修羅第一集より二十編、第二集より八編、第三集より十編、第四集より六編、疾中より二編、手帳より二編、歌曲より三編を収録。

山本太郎「宮沢賢治の世界」、会田綱雄「賢治の詩」の解説。

【作品翻訳】

34 『英語で読む銀河鉄道の夜』 ロジャー・パルバース訳、筑摩書房、96年3月、253頁、15cm（ちくま文庫）、カバー、690円

見開きの右頁に日本語、左頁に英語を対訳している。収録作品は「銀河鉄道の夜」、解説・高橋康也「越境する情熱」を添える。

35 『ベスト・オブ宮沢賢治短編集 The Tales of Miyazawa Kenji』ジョン・ベスター訳、講談社インターナショナル、96年4月、205頁、19cm、カバー、100円

見開きの左頁に日本語、右頁に英語の対訳（講談社バイリンガル・ブックス）。収録作品は次のとおり。

「Foreword（はなぬり）」「Wildcat and the Acorns（ふんぐりと山猫）」「The Restaurant of Many Orders（注文の多い料理店）」「The Earthgod and the Fox（土神とあぐね）」「Ozbel and the Elephant（オズベルと象）」「The Police Chief（毒もみの好きな署長やう）」「The First Deer Dance（鹿踊りのはなまふ）」「Night of the Festival（祭の晩）」「Gorsh the Cellist（セロ弾きのホームラ）」

36 『봄과 악수라』 조만영訳、熊進出版社、96年5月、216頁、22cm

高漢範編訳による韓国語訳詩集。総題「春と修羅」。「心象スケッチ 春と修羅第一集」24篇、「心象スケッチ 春と修羅第二集」

42篇、「心象スケッチ 春と修羅第三集」41篇、他に「遺稿詩集」として30篇、作品解説、年譜。

37 『宮沢賢治作品選』王敏・主編、春風文艺出版社、96年6月、237頁、20cm

王敏はか七名による中国語訳賢治作品集。童話篇「注文の多い料理店」「雪渡り」「銀河鉄道の夜」「セロ弾きのゴーシュ」「オッベルと象」「猫の事務所」「なめとこ山の熊」「よだかの星」「風の又三郎」詩篇「くろかけ山の雪」「雲の信号」「かはばた」「林と思想」「高級の霧」「雨ニモマケズ」「曠原淑女」。崔玉平「写在前面的話」、王敏「我与宮沢賢治一代序」。付録、王敏「宮沢賢治研究50年」「外国文学対宮沢賢治的影響」。

38 『世界少年少女文学全集31・日本童話集』啓蒙社・ソウル、96年7月、73—108頁

金英一による韓国語訳「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」を収録（一九五九（六一？）年版のものの改訂版か？）

39 『Milky Way Railroad』Translated and adapted from the Japanese by Joseph Sigris and D.M.Stroud. Published by Stone Bridge Press・Berkeley, California. 96年、140頁、22cm、\$11.95

40 『HISTORIAS MAGICAS』(宮沢賢治作品集②スペイン語版) 現代企画室、96年8月、129頁、21cm、カバー、250円

Introducción
Las bellotas y el gato montés

El Pájaro estrella

Azuencas para Buda

Noche de fiesta

La deuda de las ranas

El dios de la tierray el zorro

A comienzos de abril

El bosque de Kenju

Los osos del monte Nametoko

Sin dejarse vencer por la lluvia

41『銀河鉄道の夜』Night Train to the Stars』ジョン・ベスター

訳、講談社インターナショナル、96年8月、175頁、19cm、カバー、

1000円

見開きの左頁に日本語、右頁に英語の対訳（講談社バイリンガル・ブックス）。

収録作品は「銀河鉄道の夜」。

42『CONTE DE MIYAZAWA KENJI（宮沢賢治の童話）』

TSUJI Sanae 訳、リヨン第三大学、96年9月、184頁

リヨン第三大学言語学部に提出された修士論文（↓385）。「ひかりの素足」のフランス語訳（30—61頁）を含む。

43『賢治の詩『ネパール語』アディカリ・チェ

トラ・プラタップ『अभिकारी』訳、96年、90頁、29cm

巻頭に9頁の解説。訳詩六十四篇が収められている。

44『KUMPUTAN TERJEMAHAN Karya MIYAZAWA KE

NUJ』Endah Satari 他 訳、96年、420頁、21cm

Endah Satari 他 19名によるインドネシア語訳賢治童話集。収

録作品は「オッベルと象」「なめとこ山の熊」「よだかの星」「鹿踊りのはじまり」「狼森と策森、盗森」「グスコブドリの伝記」「猫の事務所」「やまなし」「セロ弾きのゴーシュ」「ひのきとひなげし」「土神ときつね」「注文の多い料理店」「虔十公園林」「風の又三郎」「畑のへり」「気のいい火山弾」「どんぐりと山猫」「蜘蛛となめくじと狸」、宮沢賢治略年譜。前書き Ade Surachmat、序文 Endah Satari、発行はパシジャラン国立大学日本語センター（バンテン市）。

【特集・論集】

45 文学、季刊、7巻1号、岩波書店、96年1月

見田宗介・天沢退二郎・栗原教・高橋世織（司会）「〈座談

会〉可能態としての宮沢賢治」2—22頁（↓114）、高橋世織「へ

「消す」行為」のアルケオロジー」23—32頁（↓360）、西成彦「ペー

リング鉄道から銀河鉄道へ」33—42頁（↓419）、内藤正敏「宮沢

賢治と佐々木喜善—異界・エスベラント・宗教—」43—59頁（↓

400）、副島博彦「賢治ファイル」の可能性」60—68頁（↓345）

『賢治のひろば』天沢退二郎「〈宮沢賢治〉と私—史の意味

と背景—」69—70頁（↓649）、高橋義人「生か死か—修羅から四

次元感覚へ—」71—73頁（↓369）、赤坂憲雄「風の三郎と風の又

三郎のあいだ」74—75頁(↓102)、篠内敬司「遠くからの知恵」ということ」75—77頁(↓340)、小沢俊夫「昔ばなしから見た賢治の世界」77—79頁(↓169)、井上克弘「イーハトーヴの原風景—黒ボク土とススキ—」79—81頁(↓132)、坂口昌明「宮沢清六氏の朗読法をめぐって」81—83頁(↓298)、ロジャー・パルバース「賢治を訳せば」83—85頁(↓437)、高木仁三郎「賢治と科学」86—87頁(↓357)、林光「明日またゴロシュは楽長に叱られる」88—89頁(↓448)。

46 科学朝日、56巻2号・通巻663号、朝日新聞社、96年2月

特集イーハトーブ 科学の彼方に宮沢賢治が求めた世界

1、天文学者が読む『銀河鉄道の夜』 林左松子「はるか遠くの空を夢見た子供たち」16—21頁(↓447) 2、児童文学作家が読む『よだかの星』 国松俊英「自然の音楽に耳を澄ませた鳥の詩人」22—25頁(↓238) 「年譜 宮沢賢治とその時代」26—27頁 3、地質学者が読む『グスコブドリ』の伝記」 高橋正樹「強い意思、勇気と自己犠牲の精神」28—32頁(↓365)

47 『宮沢賢治の魅力を語る』でくのぼう出版、96年2月、220頁、19cm

出版企画に対して投稿された二四本の論文、エッセイを「宮沢賢治の人と作品を語る」「宮沢賢治と私の人生を語る」の二章に収録する。

〈宮沢賢治の人と作品を語る〉

浅野直子「月夜のでんしんばしら」の向こうに」8—17頁、千葉裕之「鉄道線路の横の平らなところ」から見えた光」18—

28頁、新井豊吉「度十公園林」と知恵遅れの子たち」30—37頁、青木由起子「学者アラムハラドの見た着物」38—47頁、藤田賢一「どんぐりと山猫」と僕の秋」48—58頁、浅川孝子「どんぐりと山猫」に思う」60—65頁、酒井早苗「すきとほった風ばかり」66—74頁、米地文夫「大らかな宮沢賢治を見つけた—酒とタバコと発禁本と—」76—87頁(↓531)、三谷弘美「遠い昔のシャボン玉」88—97頁、浅野直子「銀河鉄道の窓から」98—105頁、明智和夫「賢治の作品の魅力」106—115頁、山田旅路「宮沢賢治の本意—『宮沢賢治の霊の世界』を読む—」116—125頁

〈宮沢賢治と私の人生を語る〉

佐々忠男「拾った宇宙大の思いやり」128—133頁、高橋久郎「風の又三郎よ、翔べ!」134—141頁、瀬木宣夫「私の中の賢治を探して」142—149頁、上島析一「賢治と私と戦没学徒兵と」150—157頁、立澤保光「宮沢賢治中毒者の告白」158—164頁、伊藤頼子「伝える人度十—度十公園林—より」166—173頁、佐藤誠吾「宮沢賢治と出会って」174—180頁、寺田豊子「サウイフモノニワタシハナリタイ」182—187頁、橋口恵称子「私と『銀河鉄道の夜』」188—192頁、小林俊子「ヘボラーノの広場」は探せなかった」194—201頁、平野秀哉「宮沢賢治を生きた」202—210頁、吉江久弥「最初の『宮沢賢治全集』文圃堂版との出会いとその後」212—219頁

48 言語文化、第13号、明治学院大学言語文化研究所、96年3月

西谷修「宮沢賢治、歴史と内在」1—17頁(↓428)、守中高明「二人、あるいは喪の光景—宮沢賢治における倫理の問い」18—27頁(↓501)、千葉一幹「修羅論—墮落論」28—38頁(↓379)、富山英俊「青森挽歌」を読む、聴く」39—68頁(↓398)、杉浦静

「春と修羅 第二集」考―音楽用五線ノートをめぐって― 69―
 79頁(↓323)、栗原敦「歌・口語・文語―昭和三年の宮沢賢治―」
 80―92頁(↓241)、鈴木健司「童話集『注文の多い料理店』発刊
 をめぐって―発行者・近森善一の談をもとに―」93―123頁(↓333)、
 工藤進「風野又三郎」124―135頁(↓235)、吉田文憲「移動する力
 について―『風の又三郎』を読む―」136―145頁(↓520)、道又爾
 「ゼロ弾きのゴーシュ」をめぐって 146―155頁(↓493)、石塚繁
 幸「《モナド6》―宮沢賢治作品における〈△〉の意味について―」
 156―169頁(↓145)、西勝「宮沢賢治の信仰についてのメモ―『摂
 折御文・僧俗御判』と、その時代―」170―183頁(↓423)、天沢退
 二郎「《宮沢賢治》の百年―発受信史の試み―」184―197頁(↓117)
 49 比較文化研究年報、第8号、盛岡大学比較文化研究センター、
 96年3月

宮沢賢治小特集

高橋富雄「宮沢賢治小特集を編むにあたり」1頁(↓111)、遊
 座昭吾「宮沢賢治とジャン・ジオノ―小創造主・木を植える農夫
 の物語―」3―13頁(↓515)、佐藤康司「宮沢賢治の自然科学教
 育における教授方略に関する一考察」15―30頁(↓269)、日暮雅
 夫「カール・レーヴィットと宮沢賢治―近代的個人の問題を巡っ
 て―」31―44頁(↓458)

50 てんと虫、第28巻第3号・通巻377号、アダック、96年3月

特集 宮澤賢治

浅見文夫(文)・小畑雄嗣(写真)「花巻・イーハトーブに誘
 われて」10―17頁、斎藤慎爾「未完」の賢治」18―21頁(↓998、

小澤一雄(絵)・荒井良二(絵)・峰岸達(絵)「私の中の賢治」
 22―23頁、「宮澤賢治を5倍楽しむ―絵本になった作品/音楽に
 なった作品/映画になった作品/宮澤賢治を楽しむ本/96年生誕
 百年記念イベント」24―25頁

51 宮沢賢治研究 Annual、第6号、宮沢賢治学会イーハトー
 ブセンター、96年3月

天沢退二郎・安藤恭子・大塚常樹・小原敏男・奥田弘・栗原敦・
 杉浦静・鈴木健司・高橋世織・中地文・萩原昌好・平澤信一・吉
 田文憲「宮沢賢治ビブリオグラフィ」1―145頁(↓118)、鎌田
 東二「風・鳥・シャーマン山―宮沢賢治の言語宇宙」146―158頁
 (↓216)、奥山文幸「小岩井農場―論―幻視・本体・現象」159―
 171頁(↓201)、杉浦嘉雄「『自然の翻訳書『銀河鉄道の夜』に隠
 された自然と心の深層を探る(続編)―異空間列車、銀河鉄道を
 夏の夜空のキャンバス上に敷設する夢作業―」172―194頁(↓326)、
 伊藤光弥「六日間の日記」ほか―賢治年譜(昭和五年)の発掘―
 195―206頁(↓137)、島田隆輔「春と修羅第二集の文語化稿と《文
 語詩稿》」207―219頁(↓313)、米村みゆき「『どんぐりと山猫』と
 一郎の学校教育」220―233頁(↓534)、押野武志「宮沢賢治の
 眼」について 234―246頁(↓204)、色川大吉「歴史家の見た宮沢
 賢治」247―273頁(↓153)、色川大吉「賢治の国柱会とベジタリア
 ン大祭」《色川大吉講演・補論》274―280頁(↓154)、須田浅一郎
 「宮沢賢治の文語詩に拠る挑戦」281―286頁(↓319)、大隈満「続・
 宮沢賢治と大江健三郎」287―294頁(↓178)

52 宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報、第12号・やどりぎ、
 宮沢賢治学会イーハトーブセンター、96年3月

味戸ケイコ「銀河の水は声もなく音もなく流れ」2—3頁(↓644)、【第6回定期大会リレー講演(要旨)】板谷栄城「交流電燈の明滅」6—7頁(↓278)、藤田栄一「銀河鉄道の夜にかかる天のきりん座」7—8頁(↓1325)、山内修「宮沢賢治の世界」展と年譜の仕事」8—9頁、志村章子「一九二二年謄写プリント店の宮沢賢治」9—10頁(↓1031)

門屋光昭「鹿踊りのはじまり」と民俗学的詮索」11—12頁(↓210)、米地文夫「宮沢賢治の短編「毒蛾」はいづ、なにを主題に書かれたか」13—15頁(↓533)、酒井早苗「朝日の酒」15頁、後藤敏「おきなぐさ」16頁、小松亮「注文の多い料理店」出版にかかわった近藤善一先生のことなど」16—17頁(↓951)、天沢退二郎「テキスト・クローズアップ(12)「ポラーノの広場」に「グラインの壺」?」20—21頁(↓651)、栗原敦「戒心、ご注意、ある喚起」22頁(↓916)、【冬季セミナー報告(要旨)】赤坂憲雄「風の又三郎その他」22—23頁(↓617)

53 児童文芸、第42巻4号、ぎょうせい、96年4月

特集 宮沢賢治に魅せられて

評論 宮沢賢治童話のつきない魅力を語る

須知徳平「宮沢賢治の自然観とその風土について」10—17頁(↓321)、浜野卓也「賢治アニメズム童話における自然」18—23頁(↓445)、小西正保「洞察にみちた賢治の宇宙世界」24—31頁(↓251)、続橋利雄「調査に現れた宮沢賢治童話に対する反応」32—37頁(↓395)

エッセイ 私の中の宮沢賢治

牛崎敏敏「宮沢賢治・生涯百年を迎えて」38—39頁(↓756)

瀧澤よし子「羅須地人協会夢幻」40—41頁(↓1127)、小林しげる「今なお賢治童話の本質を追いかけて」42—43頁、岡本真典「僕が銀河鉄道に乗った日」44—45頁、すずきゆきこ「時」の洗礼を受けて残ったものは」46—47頁、星クツ子「宮沢賢治の原風景にふれることを目的に—文学散歩(江刺・原体剣舞連)を通して—」48—49頁

探訪記 宮沢賢治記念館を訪ねて、森本和子「賢治宇宙の扉を開いて」50—53頁、宮沢賢治略年譜54—55頁

54 別冊家庭画報「宮沢賢治をもっと知りたい」世界文化社、96年4月、138頁、26 cm

第1章 宮沢賢治の世界 東逸子(絵)「銀河鉄道の夜」8—9頁、飯野和好(絵)「山男の四月」10—11頁、南伸坊(絵)「注文の多い料理店」12—13頁、安西水丸(絵)「どんぐりと山猫」14—15頁、北見隆(絵)「檜ノ木大学士の野宿」16—17頁、浅井慎平(フォト・エッセイ)「賢治追想」18—27頁、浅井慎平「創作童話「セロ弾きのローチェ」」28—29頁、ますむらひろし(文)・畑基由(写真)「銀河に浮かぶ三角標」30—34頁

第2章 私の好きな賢治作品 川本三郎「グスコブドリの伝記」36—37頁、筒井ともみ「風の又三郎」38—39頁、柳田邦男「よだかの星」40—41頁、別役実「やまなし」42—43頁、林あま「雪渡り」44—45頁、村上陽一郎「セロ弾きのゴーシュ」46—47頁、澤口たまみ「注文の多い料理店」48—49頁、赤坂憲雄「鹿踊りのはじまり」50—51頁、高田宏「狼森と叢森、盗森」52—53頁、落合恵子「銀河鉄道の夜」54—55頁、荻野アンナ「蛙のゴム靴」56—57頁、海野弘「ノート」東京」58—59頁、北村想「告